

5

北海道ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 豊嶋 崇徳

北海道大学大学院医学研究院 教授

研究要旨

北海道ブロック内の患者動向や各拠点病院の診療実績、活動状況を分析した。また、北海道ブロック内でのHIV診療に関する研修会の開催によって、北海道内のHIVの診療水準の向上を図った。2019年の北海道ブロック内の新規HIV感染者数は過去3番目に多い数であり、エイズ発症率の低下も見られていないことから、行政・メディア関係者などとも連携したより大規模な活動が必要と考えられた。北海道では、いまだに一般医療機関において診療拒否や差別的な対応と思われる事例が散見されており、U=Uを含めHIV感染症に関する正しい知識の啓発活動をさらに強化する必要がある。本年度は北海道内の18施設での出張研修を行い、歯科・透析・福祉サービスの各ネットワーク拡大に向けた取り組みも行った。さらにWebサイトの閲覧状況を解析し、よりアクセス数を多くする対策をすすめた。次年度以降も研修会の開催や行政との連携によってHIV医療体制の整備を進めていく予定である。

A. 研究目的

北海道ブロックのHIV感染症の診療水準の向上およびHIV感染者の早期発見・受け入れ施設の拡大を目的とした。

B. 研究方法

北海道ブロック内の拠点病院へアンケート調査を行い、患者動向、診療実績、活動状況を分析した。また、ブロック拠点病院に中核拠点病院を加えた体制でHIV診療に関する研修会を開催し、各職種における診療水準の向上を図った。なお、これらの調査及び研修会の一部は、北海道との共同で行った。さらに、ブロック拠点病院内における出前研修や院外へ出向く出張研修を通して北海道におけるHIV感染症の診療水準の向上およびHIV感染症の早期発見・偏見の解消を図った。出張研修では、研修前後にHIV診療に関するアンケート調査を行い、研修の効果を評価した。また、行政とも連携して、受け入れ施設拡大を目的とした各診療ネットワーク（歯科・透析・福祉サービス）の充実を図った。さらに、「北海道HIV/AIDS情報」のWebサイトを利用して、医療従事者および一般向けにHIVに関する知識の普

及を図り、その閲覧状況を解析した。

（倫理面への配慮）

アンケート調査や研修会でのデータ解析、症例呈示においては、患者個人が特定されない等の配慮を行った。

C. 研究結果

1. 北海道ブロックの患者動向および検査件数

2019年12月末現在の北海道ブロックにおける新規のHIV/AIDS患者数を図1に、年齢区分別患者数を図2に示した。新規のHIV感染者は27名、AIDS発症者は12名、計39名であった。年齢区分では、ほとんどが男性で、20歳代が最も多く、40歳以上の患者においては、AIDS発症者が半数以上を占めていた。北海道の保健所等におけるHIV抗体検査件数を図3に示す。2019年の検査件数は2,988件であった。

2. 北海道ブロック拠点病院および北海道大学病院の診療実績と活動状況

北海道の各拠点病院のHIV/AIDS患者の診療状況

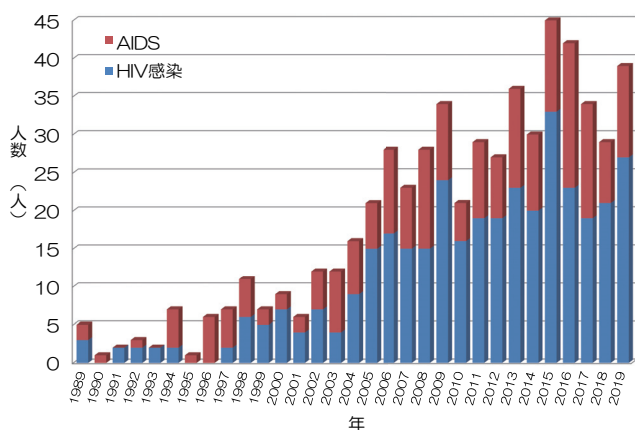


図1 北海道におけるHIV・AIDSの新規患者数

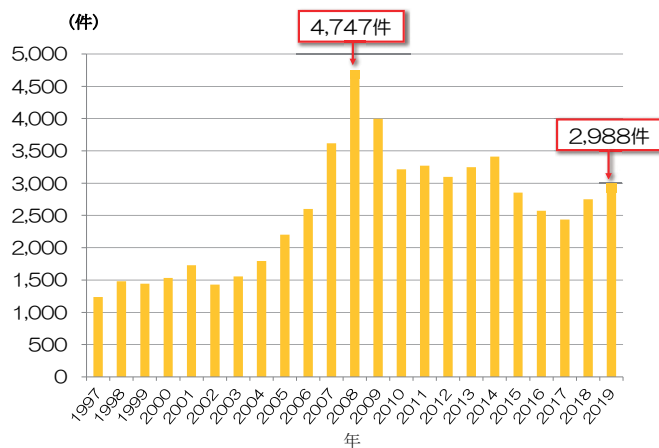


図3 北海道の保健所等におけるHIV抗体検査件数

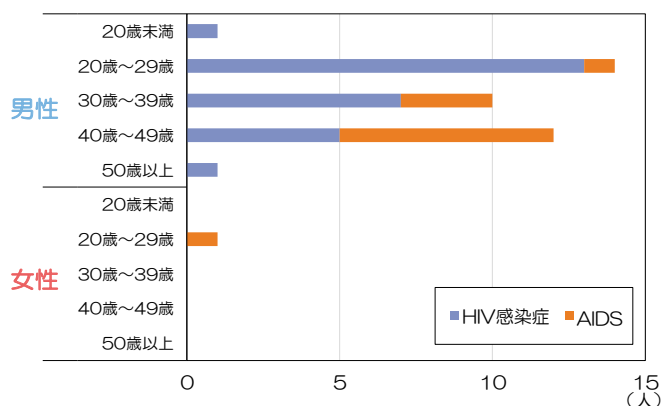


図2 北海道における年齢区分別患者数（2019年）

表1 北海道ブロックの拠点病院別患者数

	19/18/17 (年度)		累計	現在数	19/18/17 (年度)		累計	現在数
	19	18/17			19	18/17		
北海道大学病院	8	16/15	472	314	【道北・オホーツク地区】			
					旭川医大病院	1/4/5	43	23
					旭川医療センター	0/0/0	3	0
					【道央・道南地区】			
					札幌医大病院	2/9/10	123	80
					市立札幌病院	3/2/7	41	29
					北海道がんセンター	0/0/0	4	2
					北海道医療センター	0/0/0	6	0
					市立小樽病院	0/0/0	5	2
					市立函館病院	0/1/2	31	15
					道立江差病院	0/0/0	0	0
					【道東地区】			
					釧路労災病院	2/1/0	40	22
					市立釧路病院	0/0/0	4	3
					釧路赤十字病院	0/0/1	4	3
					帯広厚生病院	0/2/3	43	26

2019年7月現在

を表1に示した。現在患者がない施設が4施設あり、うち1施設はこれまでHIV/AIDS患者の診療経験が全くなかった。地域別患者数は、これまで同様、道央・道南地区が80.7%と最も多く、道東地区が9.9%、道北・オホーツク地区が9.5%であった。また、道内全体の57.3%の患者が北海道大学病院に通院していた。

北海道大学病院の活動状況としては、後述する北海道ブロックの研修会を主催または各地域の研修会の支援を行った。

3. 北海道ブロック内の研修会等の開催状況

【北海道ブロック内研修会の開催】

- 2019度北海道HIV/AIDS医療者研修会、札幌、2019年6月29日
- 道東地区研修会、釧路、2019年6月15日
- 道央地区研修会、札幌、2019年9月20日
- 道北・オホーツク地区研修会、旭川、2020年1月18日
- 北海道エイズブロック拠点病院HIV/AIDS看護師研修 基礎レベル研修、札幌、2019年7月18日

～19日

- 北海道エイズブロック拠点病院HIV/AIDS看護師研修 応用レベル研修、札幌、2019年9月5日～7日
- 北海道HIV/AIDS医療者研修会専門職研修（看護師）、札幌、2019年9月7日
- 北海道HIV/AIDS医療者研修会専門職研修（ソーシャルワーカー）、札幌、2019年10月5日
- 北海道HIV/AIDS医療者研修会専門職研修（カウンセラー）、札幌、2019年11月2日～3日
- 北海道HIV/AIDS歯科医療研修会
砂川、2019年8月24日
札幌、2020年2月29日

【北海道大学病院内研修会】

- 北海道大学病院HIV学習会
第24回：2019年5月28日
第25回：2019年9月12日
- 院内出前研修
リハビリテーション部、手術部、11-2（消化器内科・血液内科）病棟

が最も多かった。しかしながら20歳代でのエイズ発症は1名のみであり、多くが自発検査での判明であったことから、若年者の間では、自発検査の受検者が増えている可能性が考えられた。保健所等におけるHIV抗体検査件数をみても、2017年以降徐々に増加していきっていた(図3)。昨年はAIDSを題材とした映画がヒットしたことも理由として考えられ、メディアを通じた啓発活動を行うことは検査啓発に有効と思われた。今後は、拠点病院だけではなく、行政やメディア関係者などとも連携して検査啓発・予防啓発をおこなっていきたい。

北海道内のHIV感染症患者数は増加しているが、いまだに一般医療機関において診療拒否や差別的な対応と思われる事例が散見されている。また今年度、北海道の医療機関におけるHIV陽性者の就職内定取り消しに対する裁判がおこなわれた。公開された口頭陳述の中でも、被告側(一般医療機関)の差別的な発言が目立ち、未だにHIV感染症に対する根強い偏見が存在していることが明らかとなった。今後、北海道においてHIV感染症の正しい知識の啓発による差別・偏見撤廃のための活動を強化する必要があると考えられる。当院では、北海道内の医療機関や福祉関連施設を対象として出張研修を行い(図4)研修前後にアンケートをおこなっているが(図6)、今年度は特に研修後の肯定的な回答の増加が目立った。研修の中で、積極的にU=Uの内容を盛り込むことにより、HIVに対する漠然とした不安が取り除けたことが一因と思われた。

北海道では、HIV感染者の紹介を円滑に進めるために、歯科・透析・福祉サービスに関するHIV診療ネットワークを構築している(図5、表2)。今年度の各ネットワークの利用実績は、歯科ネットワークは13件、透析ネットワークは1件、福祉サービスネットワークは1件であり、いずれも速やかにHIV感染者の受け入れが決まっている。まだ利用件数は少ないものの今後HIV感染者の高齢化とともに、需要も増してくると考えられるため、今後もネットワーク拡大を図っていく予定である。このようなHIV診療ネットワークは、全国的にもニーズが高いと考えられるため、本研究班主催のシンポジウムにおいて北海道透析ネットワーク構築の経緯を紹介した。

本院で作成しているWebサイト「北海道HIV/AIDS情報」は多数の閲覧があり、ほとんどがスマートフォンやタブレット端末からのアクセスであったことから、現在PC版のみの本ホームページを本年度ス

マートフォンに対応するようリニューアル中である。また、ほとんどの閲覧者が「HIVの基礎知識」のページを閲覧していたことから、TOPページから「HIVの基礎知識」にアクセスしやすい導線とした。

E. 結論

北海道ブロックにおけるHIV診療水準向上のため、出張研修を含む研修会や診療ネットワーク、Webサイトなどを通じて、一定の成果が得られたと考えられる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 学会発表

- 1) 荒隆英、遠藤知之、後藤秀樹、日高大輔、吉岡康介、宮下直洋、笠原耕平、橋野聡、豊嶋崇徳: ART時代におけるHIV感染者の死因の検討 第116回日本内科学会総会・講演会、名古屋、2019年4月26-28日
- 2) 吉田繁、蜂谷敦子、松田昌和、齊藤浩一、岡田清美、椎野禎一郎、佐藤かおり、藤澤真一、遠藤知之、豊嶋崇徳、杉浦互、吉村和久、菊地正: HIV薬剤耐性検査の外部精度評価における次世代シーケンサーの活用 第29回日本臨床化学会北海道支部例会、札幌、2019年10月19日
- 3) 遠藤知之、後藤秀樹、荒隆英、長谷川祐太、横山翔大、中川雅夫、加畑馨、橋本大吾、橋野聡、豊嶋崇徳: HIV感染症合併血友病患者における微小脳出血の経時的評価 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019年11月27-29日
- 4) 荒隆英、遠藤知之、後藤秀樹、笠原耕平、長谷川祐太、横山翔大、高桑恵美、松野吉宏、橋野聡、豊嶋崇徳: ART開始後に縮小傾向を認めたEBV-associated smooth muscle tumor合併AIDSの一例 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019年11月27-29日

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし